



社会(国際情勢)ご担当者様

書評掲載書籍！注文殺到中！

マッドジャーマンズ ドイツ移民物語

ビルギット・ヴァイエ 著 山口侑紀 訳 ISBN978-4-7634-0833-4 C0098 A5 判変形並製 2色刷り 250頁

読売新聞書評掲載！共同通信記事配信！

マッドジャーマンズ ドイツ移民物語
 MADGERMANES

B・ヴァイエ 著 花伝社 1800円



◇Birgit Weyhe=1969年独生マックス&モーリッツ賞最優秀コミック賞受賞

評・巨 敬介 (作家・翻訳家)
 (明治大学教授)

ドイツに押し寄せる最近の移民や難民の体験を題材とした作品かと誤解しがちな副題だが、もっと長くて複雑な歴史的背景をもつドイツのモザンビーク人労働者たちの思いを伝える重厚なグラフィック・ノヴェルだった。

モザンビークはポルトガルから独立して社会主義政権になったため、一九八〇年代には「社会主義の兄弟国」東ドイツに「万人ぼの若者が出稼ぎ労働者として渡ったのだ」という。ドイツで新しい技術を習得したり教育を受けたたりできるというふれこみだったが、実際には単純労働を強いられただけだった。しかも、給料の半分は以上の国外送金のために天引きされて、本人たちではなくモザンビーク政府に支払われた。つまり、日本に来る一部の外国人技能実習生と、北朝鮮の国外労働者の境遇を合わせると、ような存在だったといえる。

しかも、彼らが東ドイツで働いている間にモザンビーク社会は冷戦構造を背景にした暴虐な内戦によって崩壊し、彼らを雇用していた東ドイツという国家までもが、ある日消滅してしま

苦渋に満ちた裏面史


「最初の記憶は、ウガンダへ引越したとモザンビークに行ったのは初めてだったけれど、なかなか懐かしい感じ。どのみち、ハンブルクよりふるさとを「ぼい」故郷って、何だろー」とラレルを口にしたくわえた黄金色のヒヨウと一緒に描かれる自伝的回想シーンからビルギット・ヴァイエのグラフィック・ベルはじまる。

かつて旧東ドイツには約二万人のモザンビーク人がちやうどやってきたのだが、東西ドイツ統一後、国に戻らねばならなくなったとき「彼らは自分の国で『モザンビーク』と自称する。そんな人々が自称するのが、タイトルにもなっている『マッドジャーマンズ』。そのひびひびりとした実話や、架空の3人の男女の物語とされていく。たゞ、ドイツへやってきてはじめて見る雪のこの「仕事」フアッション、

マッドジャーマンズ ドイツ移民物語

ビルギット・ヴァイエ 著 山口侑紀 訳

花伝社 1800円



「国」って？「故郷」って？

恋やセックス、妊娠した女性に中絶するかモザンビークへ送り返される外は道がないこと。

生まれた場所だからといって、肌の色が同じだからといって、話す量や同じだからといって、そこが必ずしも「故郷」にはならない。その現実が「思い出す」思い出せない」と繰り返されてきたが、黒い黄金色で彩られた絵の中で、子細にすくいとりたててゆくの。これは、遠い欧州、移民や難民たちだけの問題、というわけではない。

これは「結」のち、縋もな、文化のほら、ゆらめく、自分の国で「よそ者」にならざるを得ない、そんなひびひりとした話なのだ。

私たちが「国」って「故郷」って、何だろう？

たとえば、この日本に生きる、アジアや諸外国から働き手としてやってきた人たち、屋上カネ電所の事故などにより地元を離れるをえなかつた人たちにどうしては？

これは「ちのめく」ひとひとひとに生きている、私たちに問いかける、切実な問いだ。

(小林エリカ・作家、漫画家)

読売新聞書評

共同通信配信

定価：本体 1800 円＋税
 * 2016 年「マックス&モーリッツ賞」
 最優秀ドイツ語コミック賞受賞作*

FAX 03-3239-8272

フリー入帖 弊社はすべてフリー入帖でお受けしております。逆送の可能性のある場合は、「久保了解」としてご返品ください。

ご注文日	月	日	部数	条件	<p>著者 ビルギット・ヴァイエ 定価：本体 1800 円＋税</p> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">マッドジャーマンズ</p> <p style="font-size: 1.5em; font-weight: bold;">ドイツ移民物語</p>
番線印					返条付
ご担当者名					部

A5 判変形並製 250 頁 ISBN978-4-7634-0833-4 C0098